

2017年3月期決算説明会

2017年5月11日
株式会社エフテック
東証1部:7212
<http://www.ftech.co.jp>

1. 決算概要
2. 業績予想
3. 経営戦略
4. トピックス



代表取締役社長
福田 祐一

- 1. 決算概要**
2. 業績予想
3. 経営戦略
4. トピックス



**代表取締役社長
福田 祐一**

連結決算概要(前年同期比)



(単位:百万円)

	2016年3月期 実績		2017年3月期 実績		増減	
	金額	対前年比	金額	対前年比	金額	対前年比
売上高	196,343	100.0%	197,941	100.0%	1,598	0.8%
営業利益	6,821	3.5%	8,035	4.1%	1,214	17.8%
経常利益	6,182	3.1%	7,214	3.6%	1,032	16.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,704	1.4%	4,035	2.0%	1,330	49.2%
1株利益(円)	176.14	—	261.01	—	84.87	48.2%

転換済み社債1,650百万円

為替

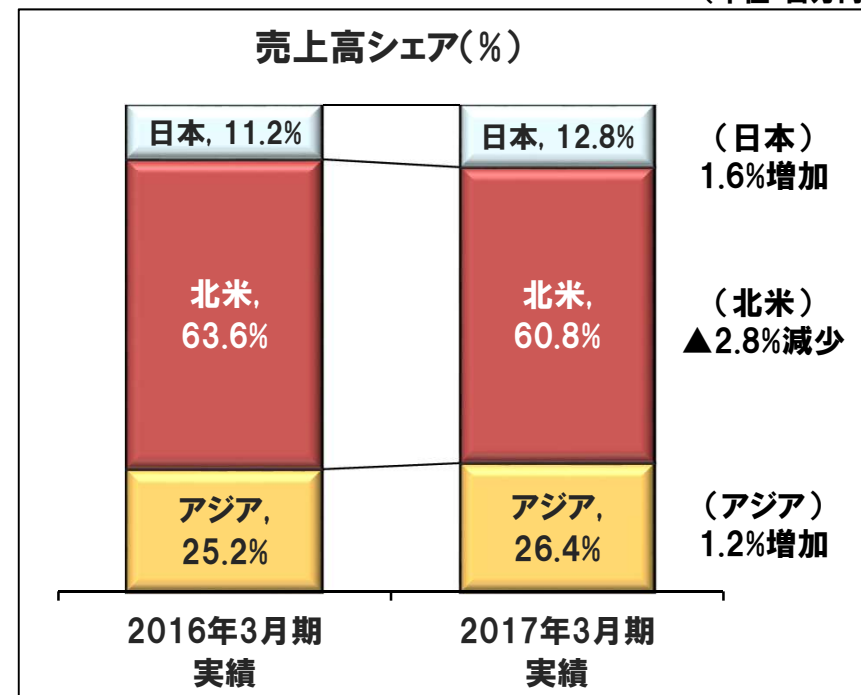
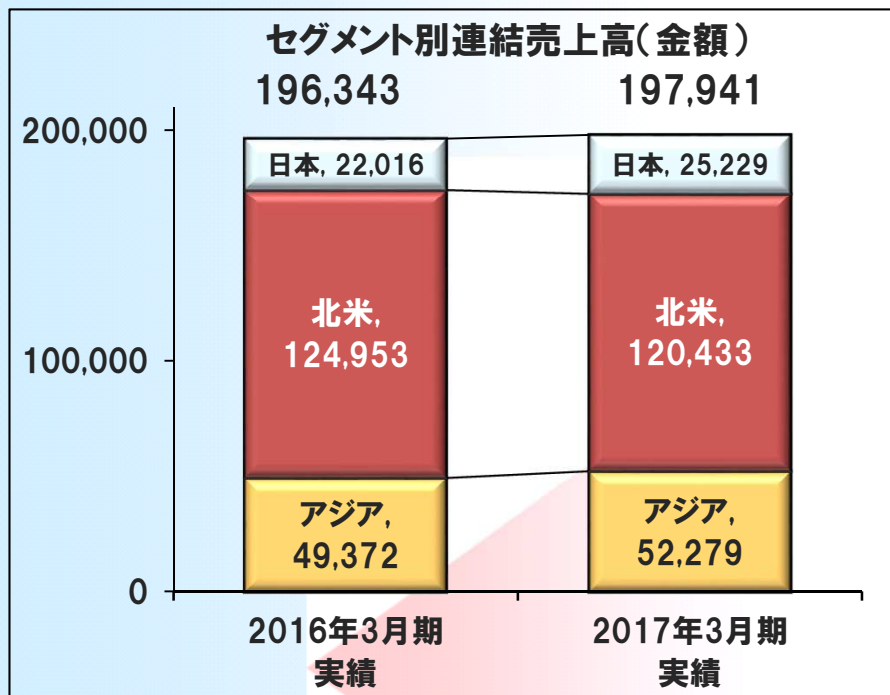
	2016年3月期	2017年3月期	増減額
1US\$	120.15円	108.71円	▲11.44円
1CAN\$	91.78円	82.60円	▲9.18円
1人民元	19.19円	16.41円	▲2.78円

増収増益(円高による為替影響も、アジア地域の伸びが全体収益を底上げ)

連結売上高(前年同期比)



(単位:百万円)



連結売上高増減

	'16年3月期	'17年3月期	増減	増減率	為替影響	実質増減	増減率
日本	22,016	25,229	3,212	14.6%	—	3,212	14.6%
北米	124,953	120,433	▲4,520	▲3.6%	▲12,990	8,470	6.8%
アジア	49,372	52,279	2,906	5.9%	▲8,421	11,327	22.9%
連結	196,343	197,941	1,598	0.8%	▲21,412	23,010	11.7%

連結売上高の87.2%が海外拠点、為替影響を除く実質売上高は全セグメントで増収

セグメント別営業利益(前年同期比)



(単位:百万円)

	金額			
	2016年 3月期 実績	2017年 3月期 実績	増減	増減率
日本	381	958	576	150.9%
北米	4,675	2,928	▲1,747	▲37.4%
アジア	2,069	3,868	1,799	86.9%
合計	7,126	7,754	627	8.8%
調整	▲305	281	586	—
連結	6,821	8,035	1,214	17.8%

シェア		
2016年 3月期 実績	2017年 3月期 実績	増減
5.6%	11.9%	6.3%
68.5%	36.4%	▲32.1%
30.3%	48.1%	17.8%
104.5%	96.5%	▲8.0%
▲4.5%	3.5%	8.0%
100.0%	100.0%	0.0%

1. 決算概要
- 2. 業績予想**
3. 経営戦略
4. トピックス



**代表取締役社長
福田 祐一**

連結業績予想(2018年3月期予想)



(単位:百万円)

	2017年3月期 実績		2018年3月期 予想		増減	
売上高	197,941	100.0%	209,000	100.0%	11,058	5.6%
営業利益	8,035	4.1%	8,000	3.8%	▲35	▲0.4%
経常利益	7,214	3.6%	7,400	3.5%	185	2.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,035	2.0%	4,000	1.9%	▲35	▲0.9%
1株利益(円)	261.01	—	239.14	—	▲21.87	▲8.4%

為替

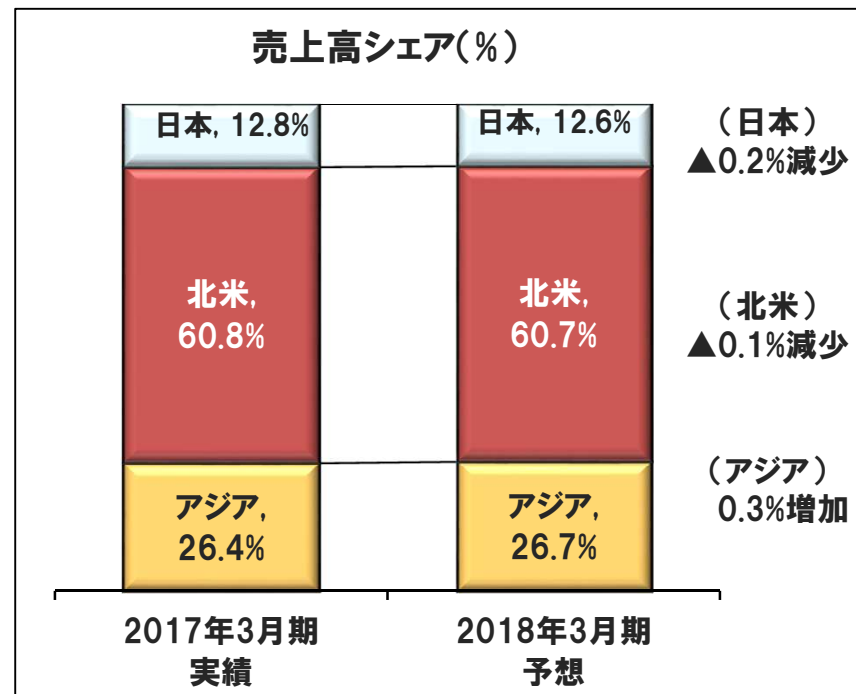
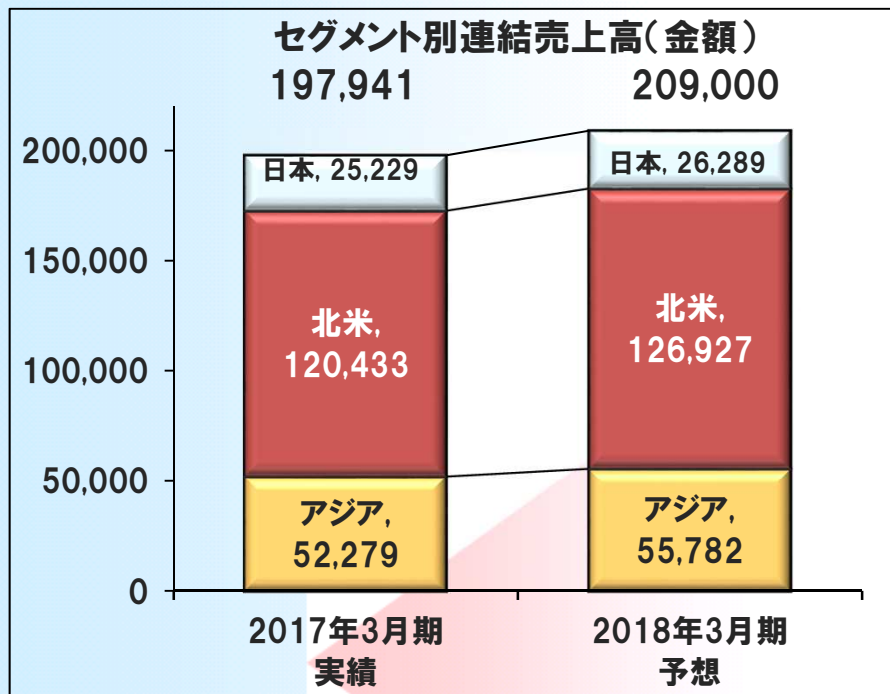
	2017年3月期	2018年3月期	増減額
1US\$	108.71円	108.00円	▲0.71円
1CAN\$	82.60円	80.00円	▲2.60円
1人民元	16.41円	15.70円	▲0.71円

増収(為替影響による減益、アジアは好調維持、北米は先行投資による固定費増加)

連結売上高(2018年3月期予想)



(単位:百万円)



連結売上高増減

	'17年3月期	'18年3月期	増減	増減率	為替影響	実質増減	増減率
日本	25,229	26,289	1,060	4.2%	—	1,060	4.2%
北米	120,433	126,927	6,494	5.4%	▲2,242	8,737	7.3%
アジア	52,279	55,782	3,503	6.6%	▲2,520	6,023	11.5%
連結	197,941	209,000	11,058	5.6%	▲4,763	15,821	8.0%

連結売上高の87.4%が海外拠点、実質増減ではアジアセグメントが大きく増収

セグメント別営業利益(前年同期比)

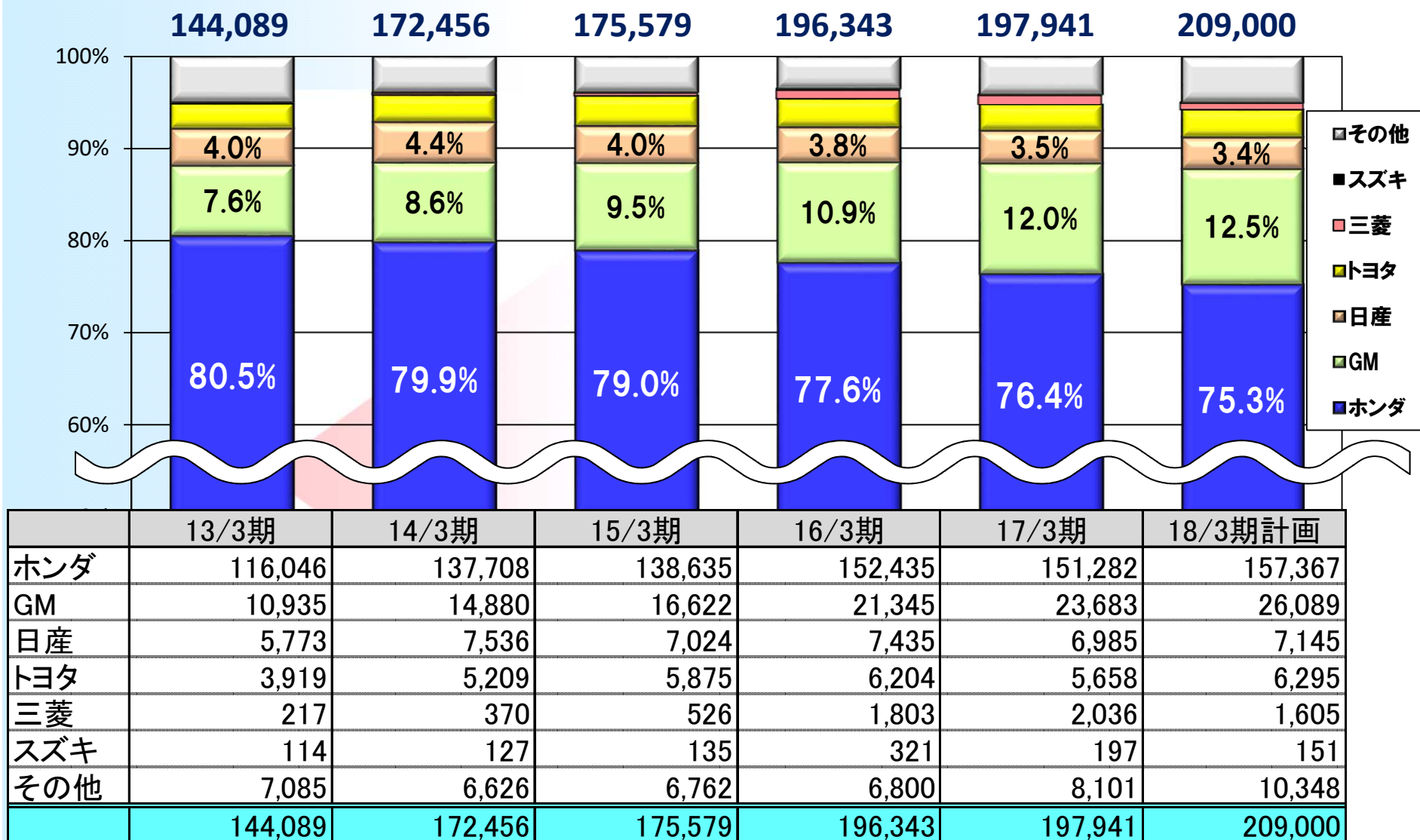


(単位:百万円)

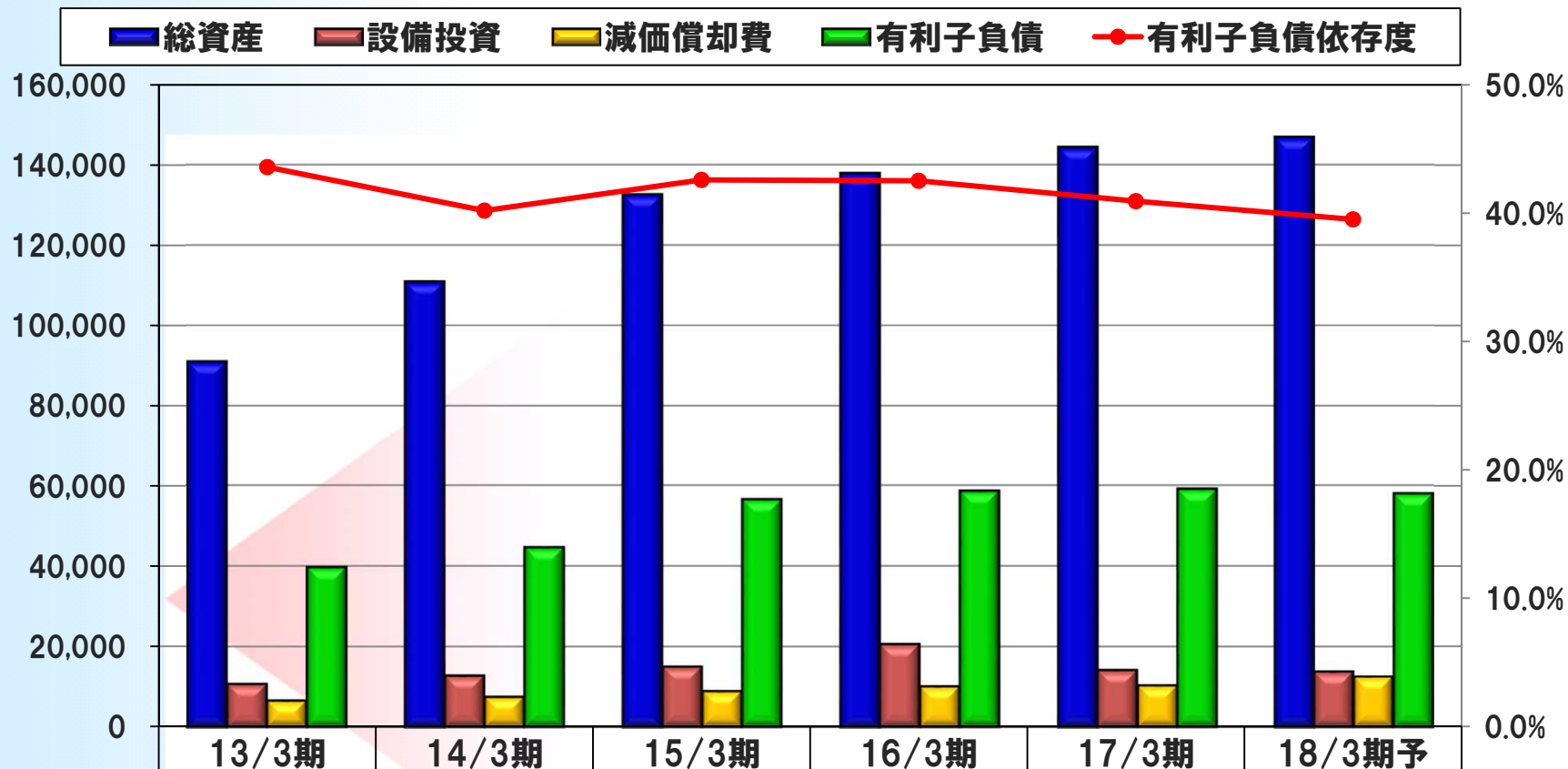
	金額			
	2017年 3月期 実績	2018年 3月期 予想	増減	増減率
日本	958	921	▲37	▲3.9%
北米	2,928	1,705	▲1,222	▲41.7%
アジア	3,868	4,973	1,104	28.6%
合計	7,754	7,600	▲154	▲2.0%
調整	281	400	118	42.3%
連結	8,035	8,000	▲35	▲0.4%

シェア		
2017年 3月期 実績	2018年 3月期 予想	増減
11.9%	11.5%	▲0.4%
36.4%	21.3%	▲15.1%
48.1%	62.2%	14.1%
96.5%	95.0%	▲1.3%
3.5%	5.0%	1.5%
100.0%	100.0%	0.0%

得意先別売上高の推移



財務の状況



	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期予
総資産	91,200	111,062	132,697	137,980	144,420	146,920
設備投資	10,696	12,715	14,987	20,578	14,094	13,755
減価償却費	6,544	7,508	8,920	10,081	10,335	12,550
有利子負債	39,786	44,679	56,570	58,686	59,129	58,068
有利子負債依存度	43.6%	40.2%	42.6%	42.5%	40.9%	39.5%

2018年3月期予定

	1Q末	2Q末	3Q末	4Q期末	合計	配当性向
2018年3月期 配当予定	—	10円00銭	—	10円00銭	20円00銭	8.4%
(ご参考)2017年3月期 ※株主総会決議事項	—	10円00銭	—	17円00銭	27円00銭	11.4%
前期比 増減	—	—	—	▲7円00銭	▲7円00銭	▲3.0%

配当方針

当社の利益配分に関する基本方針は、業績に基づく利益還元を基本としています。財務体質の強化を図りながら利益の状況、将来の事業展開など長期的な視野に立って皆様への利益還元を図ってまいります。配当性向の当面の目途を親会社株主に帰属する当期純利益の10%以上とし、中間、期末の年2回を基本としております。

なお、2017年3月期の期末配当金は、1株当たり普通配当10円に創業70周年記念配当7円を合わせて期末配当金を17円とし、年間配当金は中間配当金10円と合わせて、27円とする予定をしております。

1. 決算概要
2. 業績予想
- 3. 経営戦略**
4. トピックス



**代表取締役社長
福田 祐一**

会社方針:「圧倒的な競争力をもつシャーシシステムメーカーになる」

基本事業戦略

1. シャーシシステム体質への変革

- ・シャーシ単体開発から、シャーシ周辺部品も含め複合的に開発(シャーシシステム)する体制への転換

2. グローバルオペレーションへの進化

- ・拠点のグローバル展開
→24時間体制の実現
- ・開発基盤システムの導入
→開発環境のボーダレス化

グローバル
ニーズに
最適に対応

3. 環境対応技術強化

- ・軽量化技術進化
- ・新加工技術
- ・電子化

目標

業績

売上高 2,000億円

営業利益 100億円
(営業利益率5%以上)

有利子負債依存度:30%以下

拡販

- ・欧米系メーカーへの販路拡大
- ・GM売上の拡大
- ・ホンダ以外の受注比率向上

技術

- ・軽量化技術の進化
- ・新加工技術の進化
- ・新素材の加工技術の確立

開発

- ・複合機能モジュール開発
- ・電子化部品の対応
- ・軽量化設計

シャーシシステム体質への変革

単体部品から複合でシステム化



将来

複合でのシステムとして最軽量開発

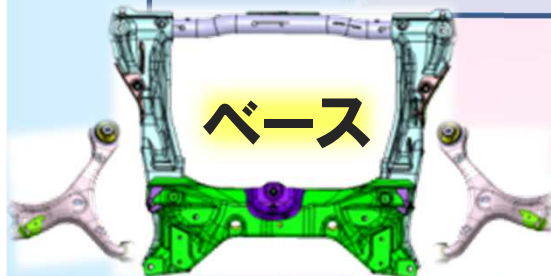
組み付け完成状態での総合品質保証

最適加工技術の実現

シミュレーション技術を駆使して最適化設計

ブッシュ、ボールジョイントの自社調達化

最軽量、高剛性を両立し、コスト競争力ある単体部品の開発、提案



サブフレーム、サスペンション単体供給から
複合でシステムとして開発製造し、お客様の
ニーズに合致した最適形態で供給する。

シャーシシステム体質への変革

単体部品から複合でシステム化



将来

複合でのシステムとして最軽量開発

組み付け完成状態での総合品質保証

最適加工技術の実現

シミュレーション技術を駆使して最適化設計

ブッシュ、ボールジョイントの自社調達化

最軽量、高剛性を両立し、コスト競争力ある単体部品の開発、提案

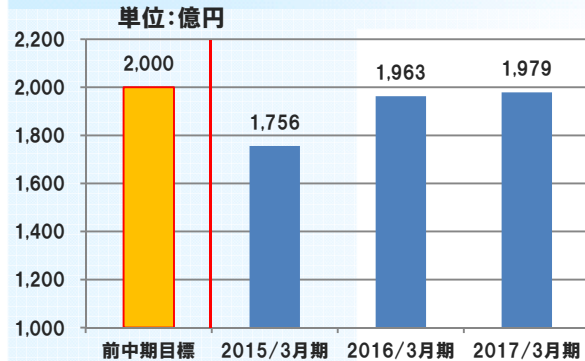


サブフレーム、サスペンション単体供給から
複合でシステムとして開発製造し、お客様の
ニーズに合致した最適形態で供給する。

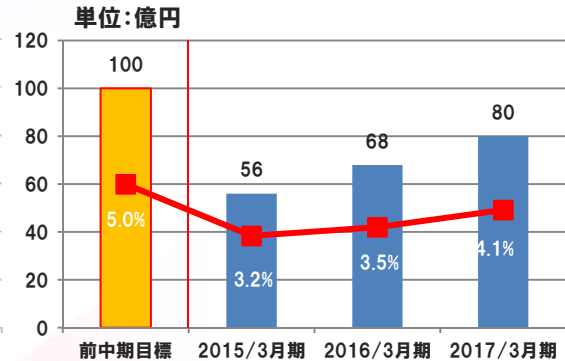
前中期3カ年経営計画 実績

実績

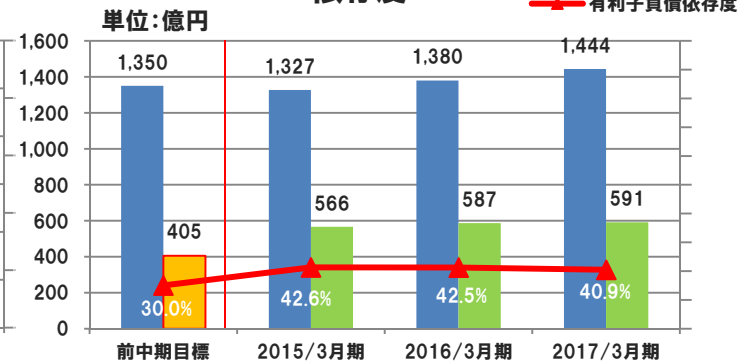
売上高



営業利益



有利子負債依存度



財務 収益

- ・売り上げ 2000億円 営業利益率 5%
- ・有利子負債依存度 30%



- ・売り上げ 1979億円 営業利益率 4.1%
- ・有利子負債依存度 40.9% **・経営指標未達**

拡販

- ・欧米系メーカーへの販路拡大
- ・GM売上の拡大
- ・ホンダ以外の受注比率向上



- ・欧米系メーカーの**新規口座開設**
- ・GM売上高**59.2%UP**(14年3月期比較)
- ・他販売比率前期比 **3.5%UP**(14年3月期比較)

技術

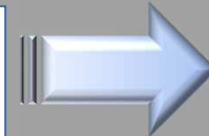
- ・軽量化技術の進化
- ・新加工技術の進化
- ・新素材の加工技術の確立



- ・超精密塑性加工技術(FUT-1)の導入と進化完了
- ・異材接合技術(FSW)、国内**汎用ライン化**完成
- ・アルミ・樹脂 中空構造の実現

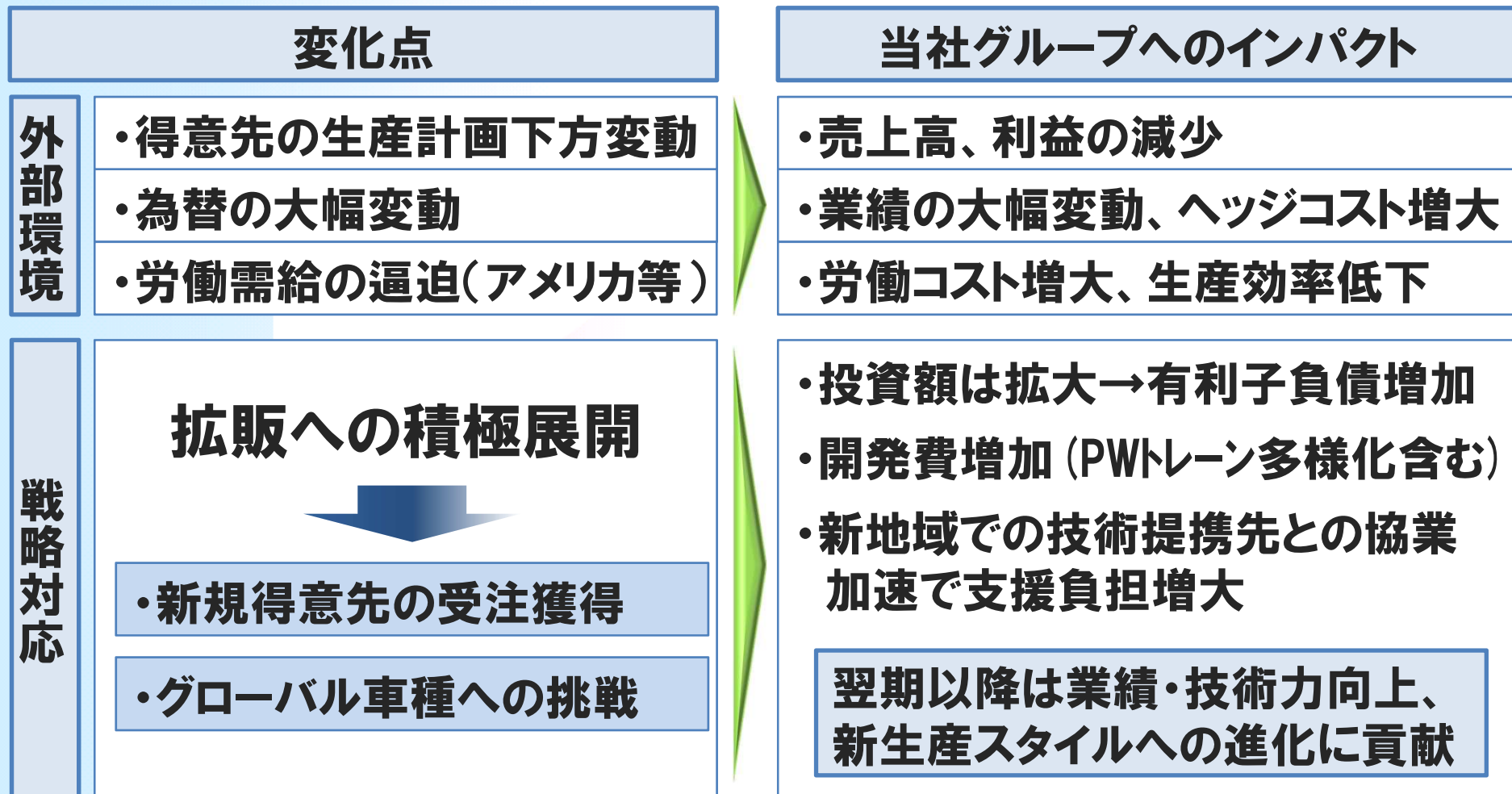
開発

- ・複合機能モジュール開発
- ・電子化部品の対応
- ・軽量化設計



- ・**CivicSusモジュール受注獲得**(北米)
- ・多軸ロードシミュレーターの導入による複合評価
- ・オブティマイゼーションの導入と進化による新構造

前中期3カ年経営計画比主要変化点



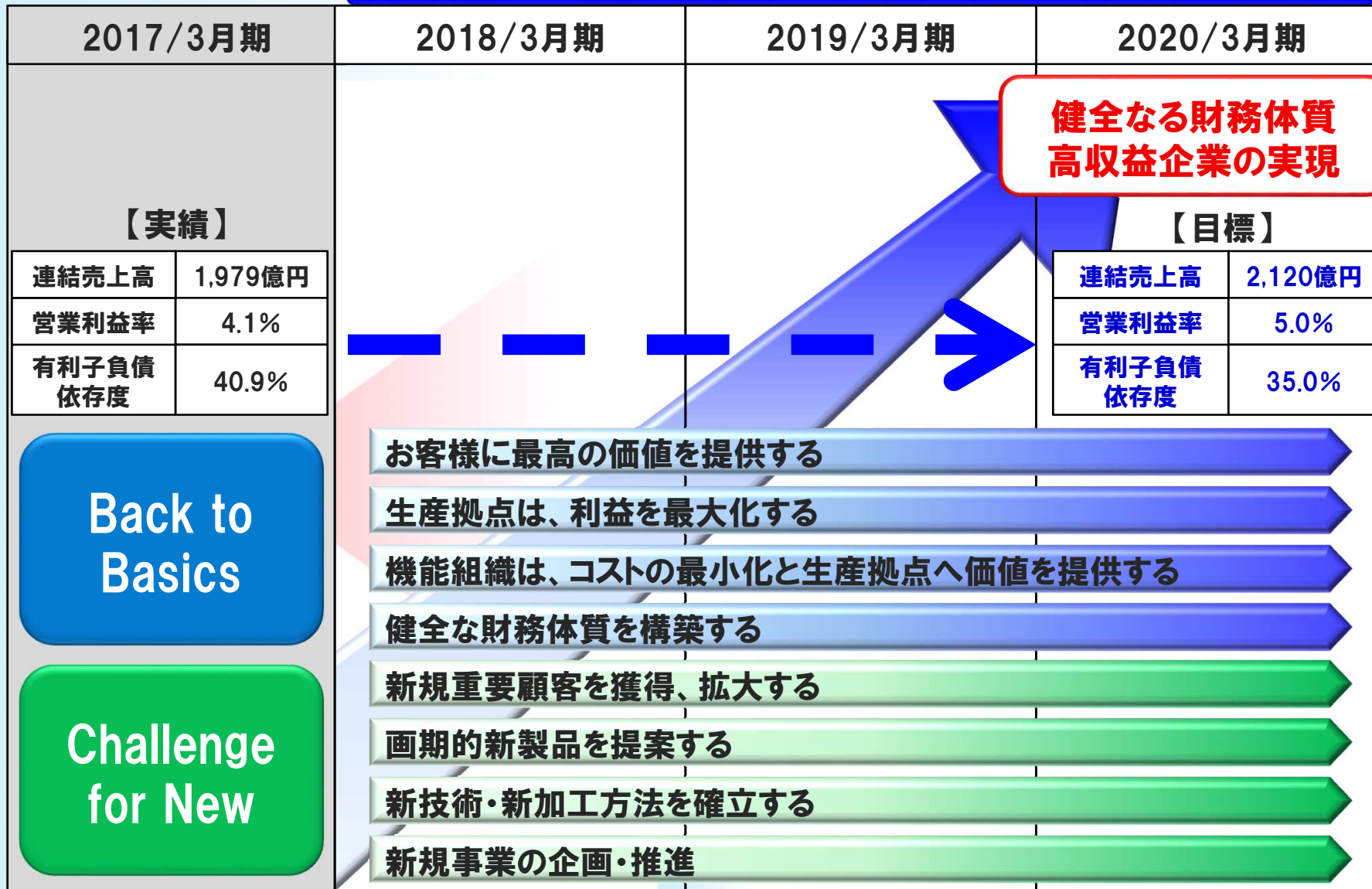
環境変化を先取りし、新たな成長へ飽くなきチャレンジ

Back to Basics, Challenge for New

新中期3カ年経営計画 基本方針

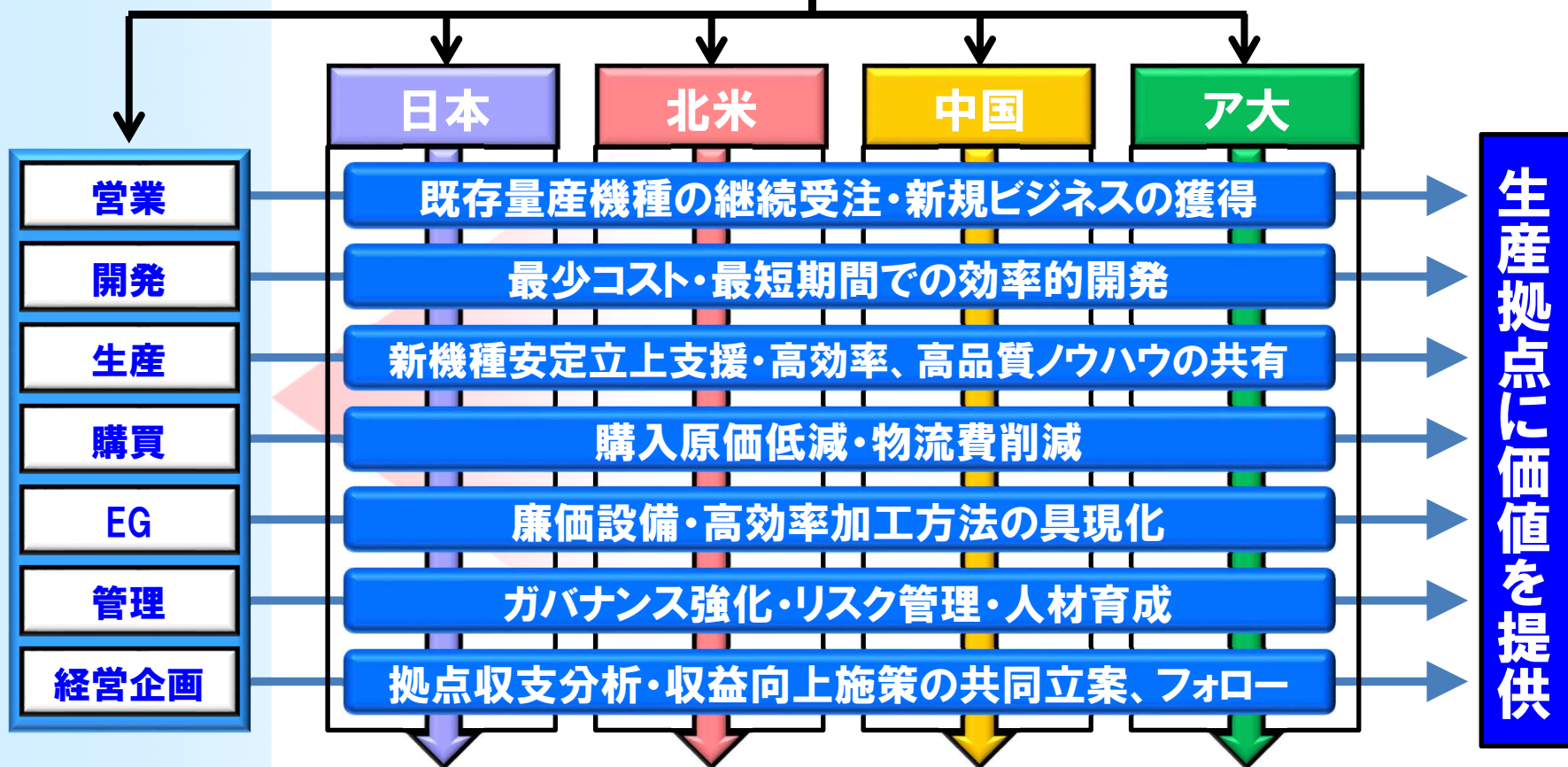


会社方針 Back to Basics, Challenge for New



日本からの発信力アップ

Back to Basics, Challenge for New



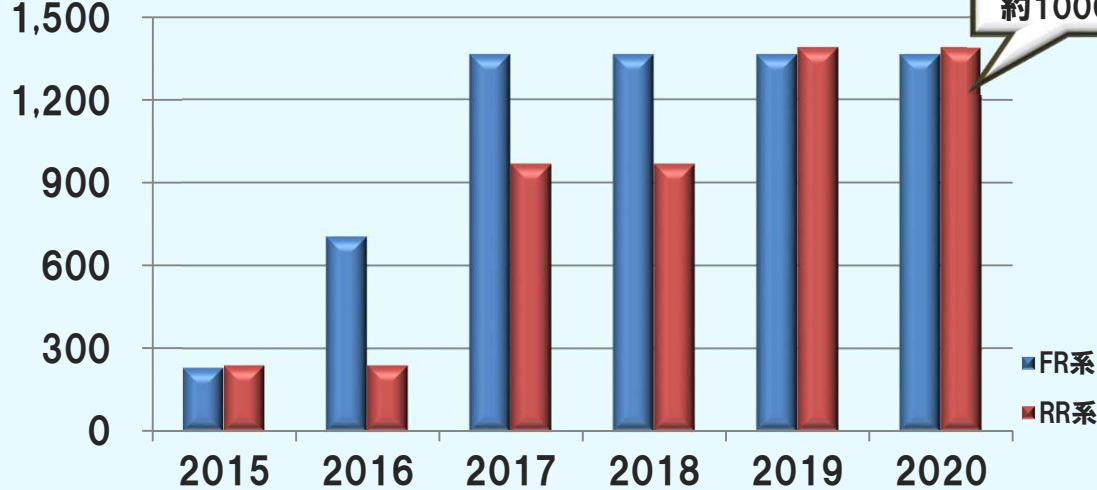
生産拠点はプロフィットセンターとして中期目標を必達

新中期3カ年経営計画 受注状況



1. 当社のGMに対するシェア

単位:千台



ボディ部品から
サスペンション部品へ

2020年までに
13%のシェア獲得

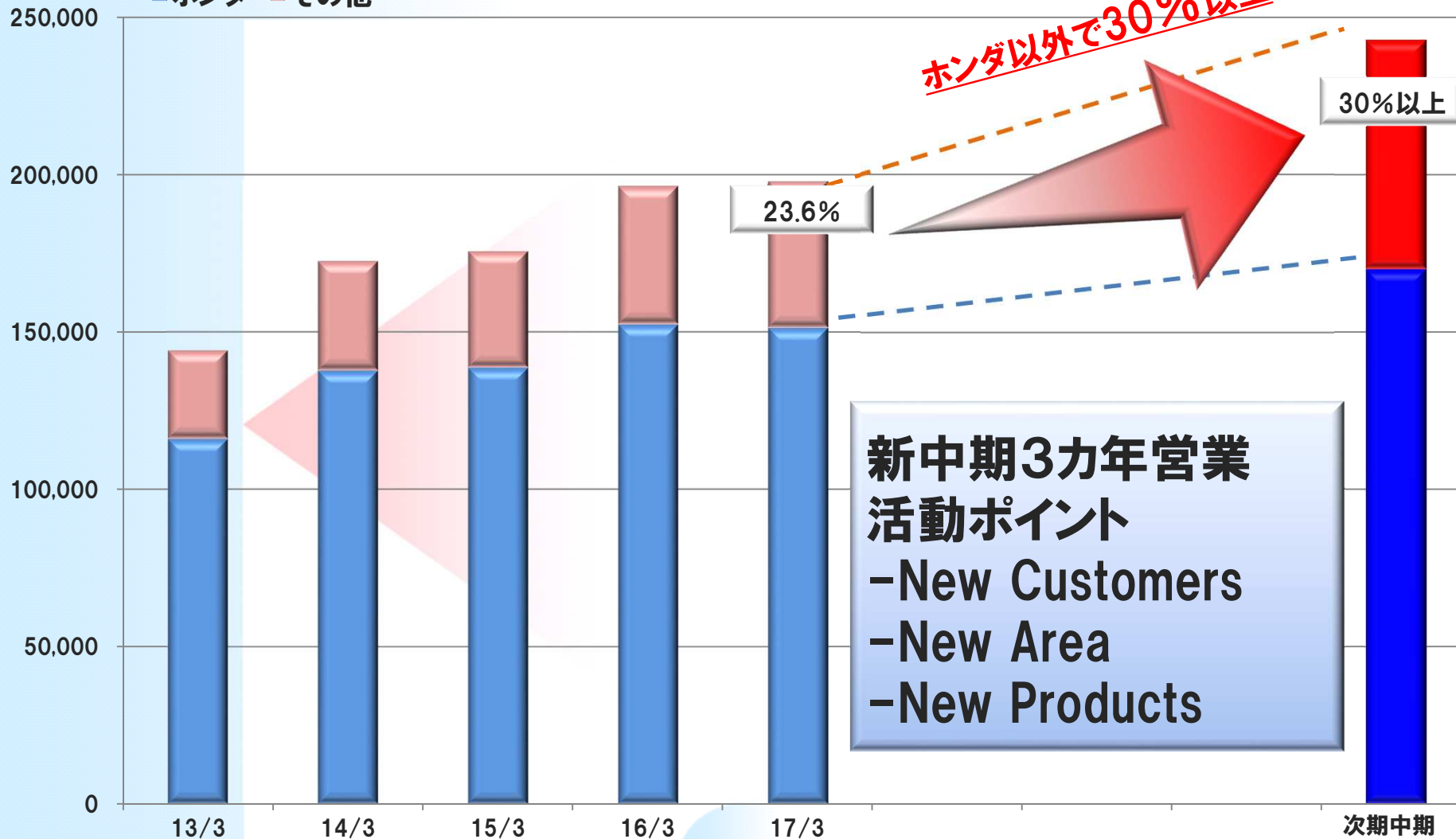
2. 新たな顧客への販売予定 (サスペンション/マウント部品)

新規顧客名	当社 生産拠点	新中期計画(17/4~20/3)実現		
		2018/3月期	2019年3月期	2020年3月期
顧客 F	タイ	■	■	■
顧客 T	カナダ	■	■	■
顧客 C	カナダ	■	■	■

中長期売上戦略

単位:百万円

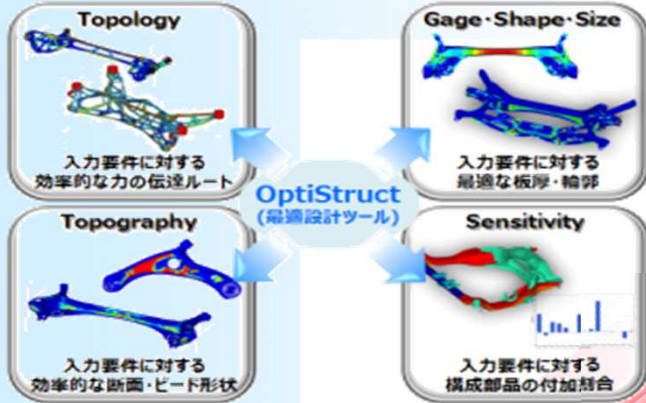
■ホンダ ■その他



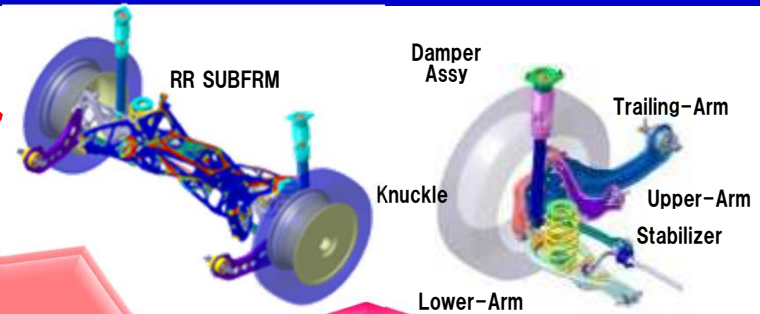
新中期3カ年営業活動ポイント

- New Customers
- New Area
- New Products

◆製品単体での最適設計開発



車両性能を予測し
Assemblyで
最適設計開発

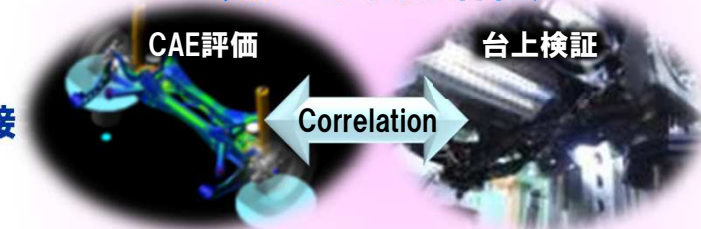


OEM
シャーシ開発の
一翼を担う

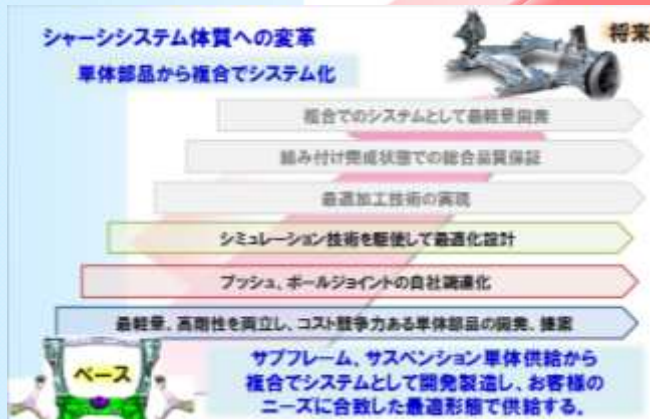
〈実車性能〉



〈サスペンション特性〉

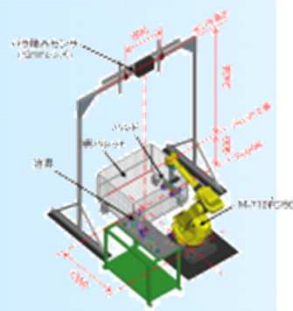


〈BODY & SUBFRM剛性・強度・衝突性能〉

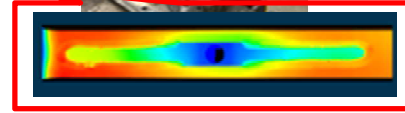
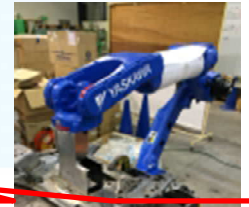


《生産技術》
 ハイドロフォーム
 超精密塑性加工
 高ハイテン材加工
 アルミ プレス/MIG溶接
 FSW・レーザー接合
 造管加工・樹脂成形

製品開発⇒ボディ/シャーシ性能・サスペンション/車両性能を予測
OEMプラットフォーム開発へ最適なコンポーネント製品を提供



ビジョントライ
2SJナット小組設備
検証中



ビード外観検査
FSW実機検証中

STEP2

自動化技術の検証
•各項目の実機検証
•自動化ライン製作熟成

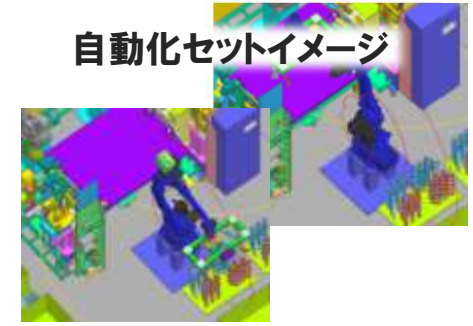
STEP3

自動化ライン立ち上げ
•自動化ラインの管理体制構築
•製品保証の確立

STEP4

北米地域から順次、
自動化ライン稼働
•自動化コストの実機検証

自動化セットイメージ



2017

2018

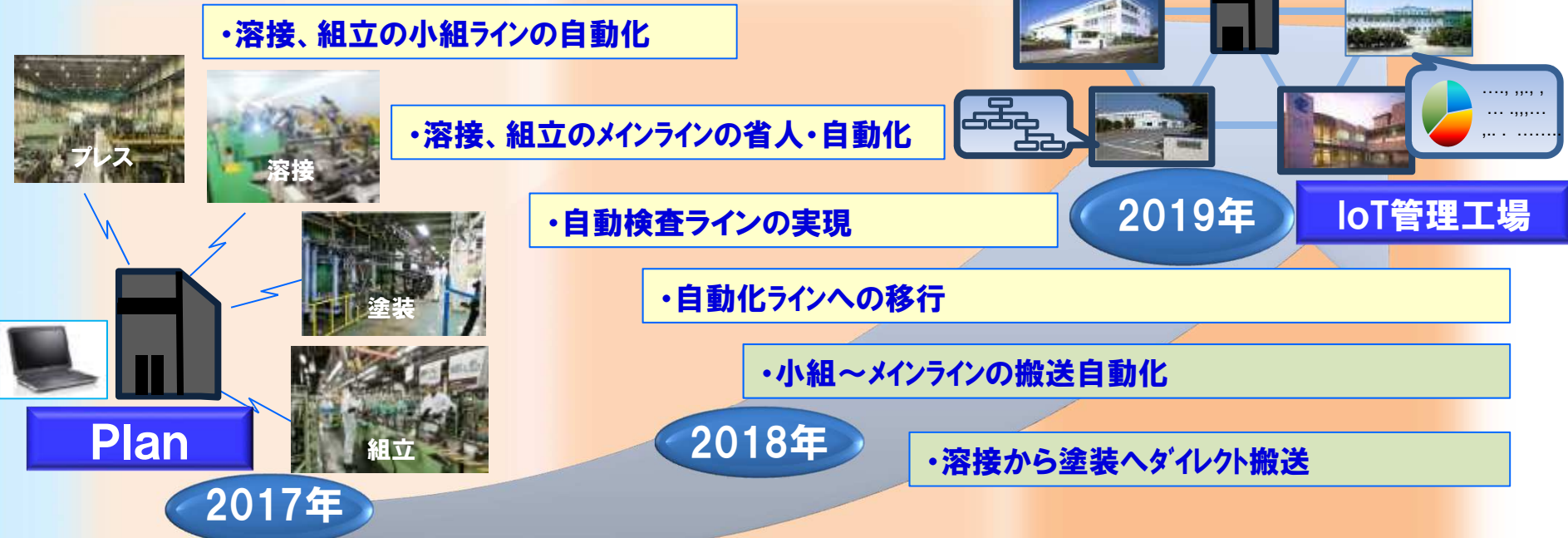
2019

2020

新素材～マルチマテリアル対応に加え、コア技術を基盤に圧倒的な
コスト競争力を発揮する為、自動化ライン拡充を展開中

高収益生産体質への改革

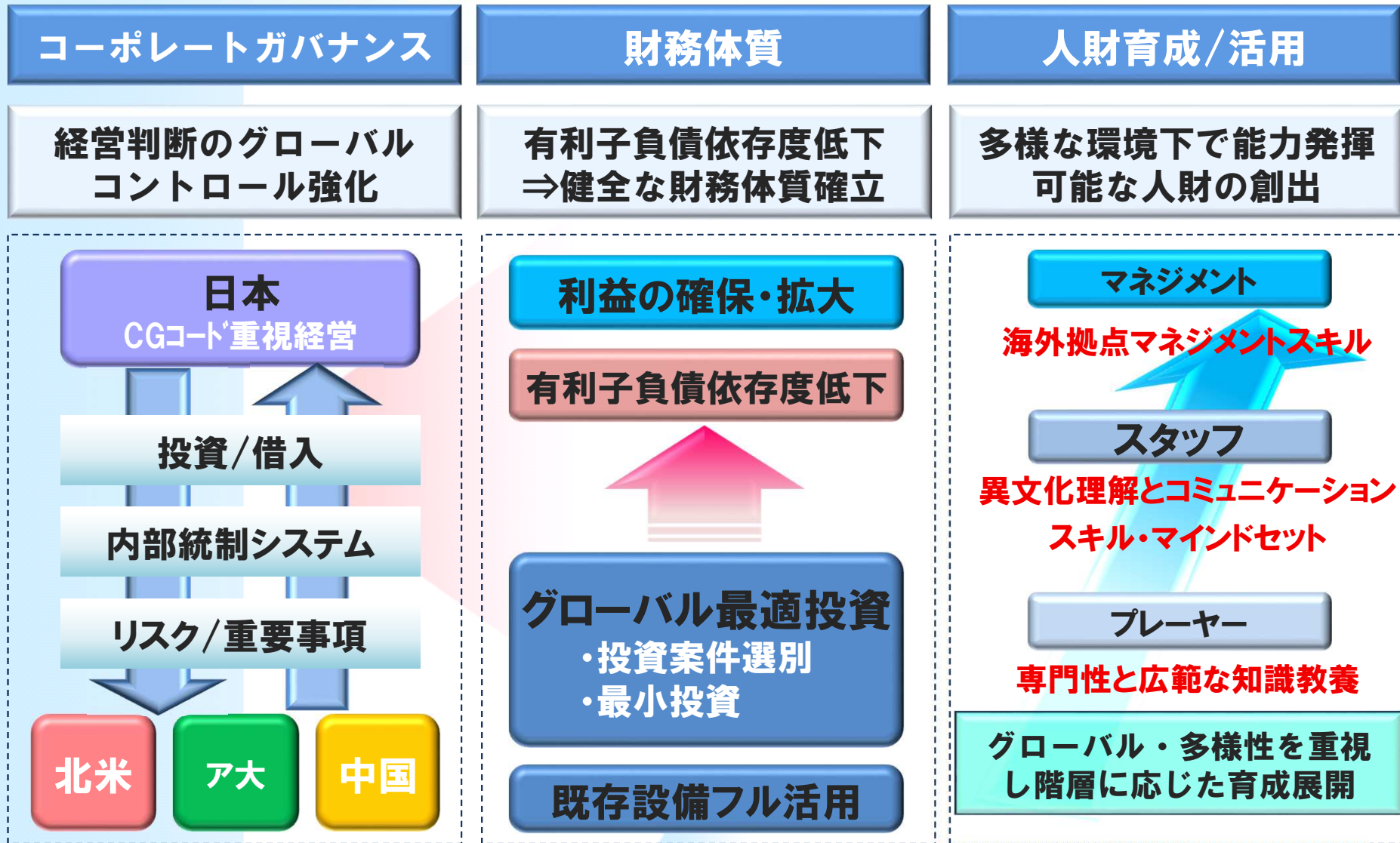
次世代スマート工場を目指して



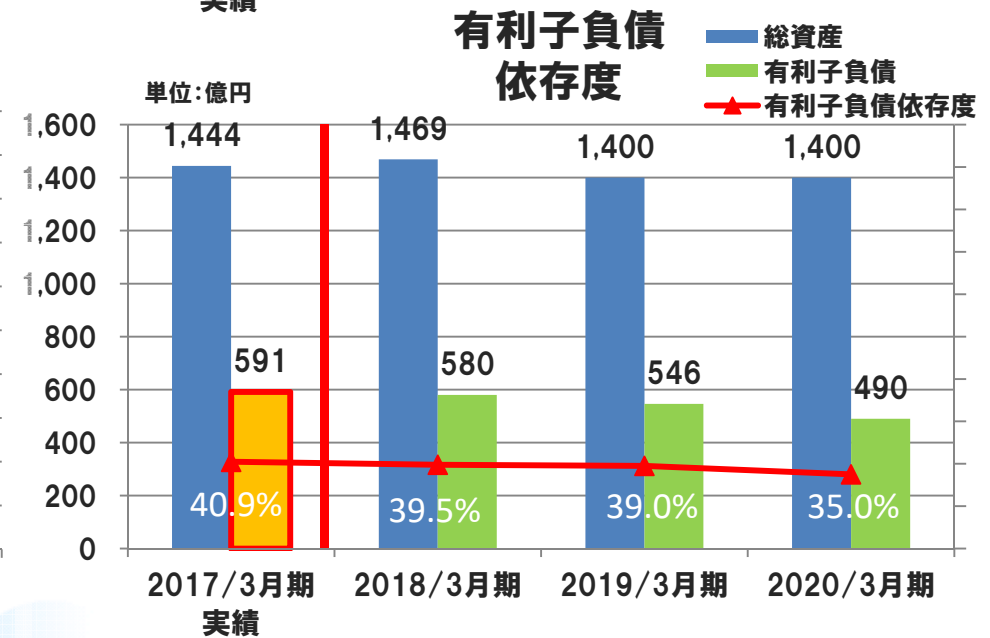
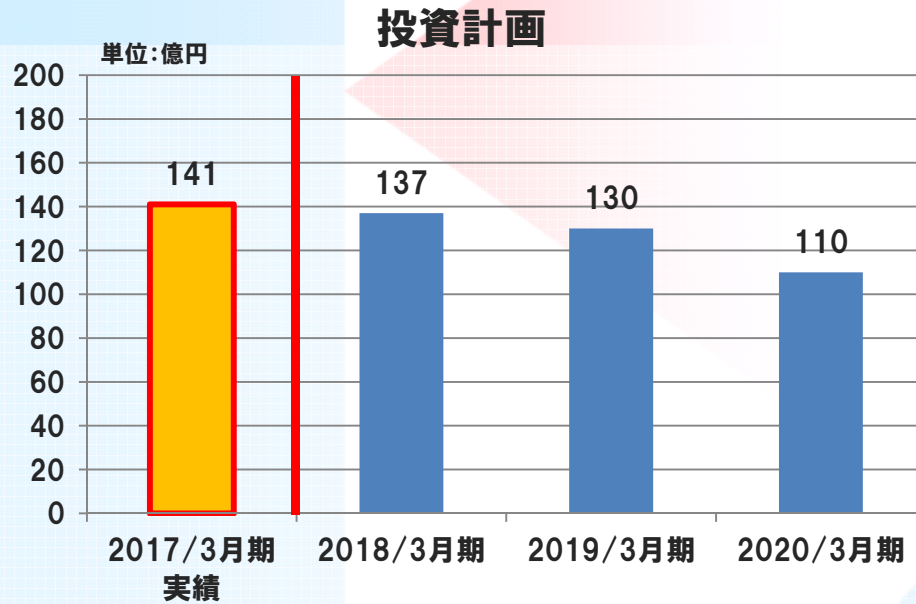
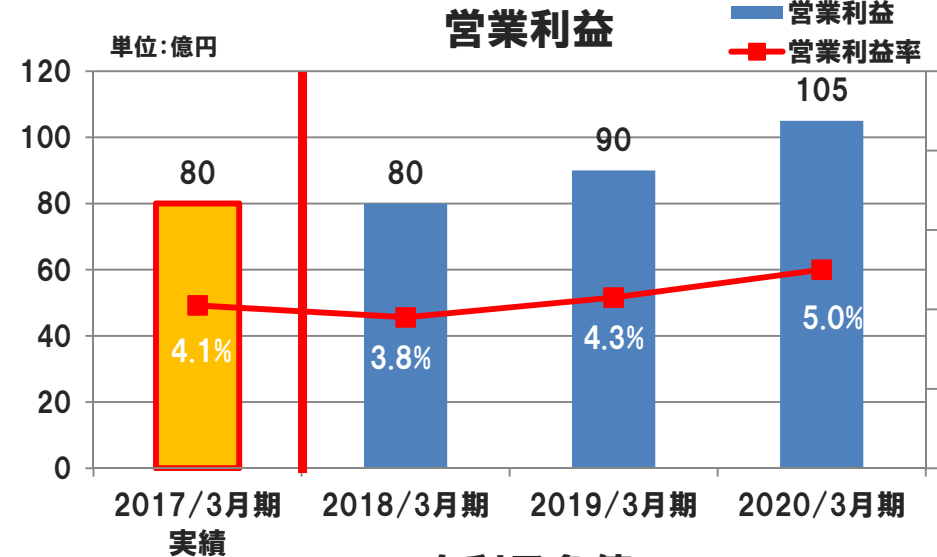
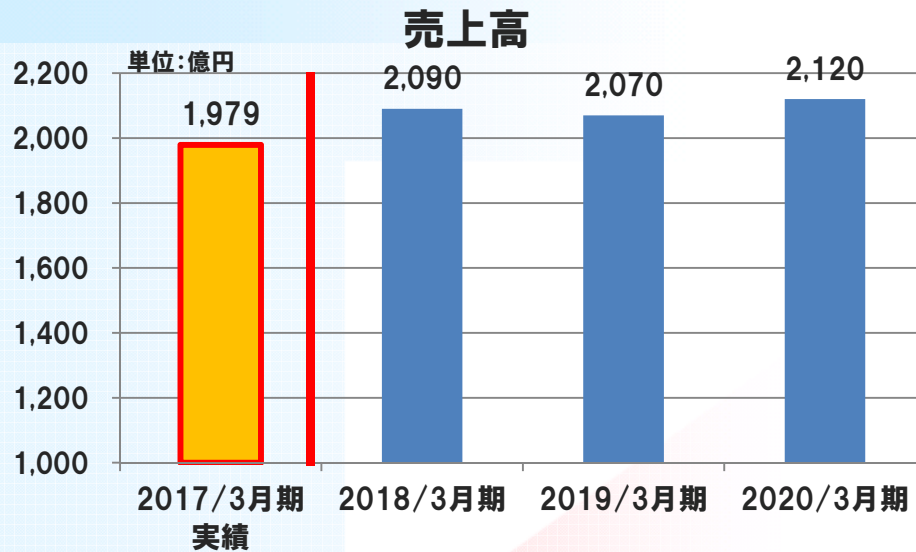
STEP-1 19年Model 2017年8月, 12月～導入
STEP-2 20年Model 2018年4月, 6月～導入
STEP-3 21年Model以降 2019年～導入

汎用化と自動化技術の促進と加速、高効率、高品質、高収益を実現する次世代スマート工場へ進化

グローバルマネジメントへの進化



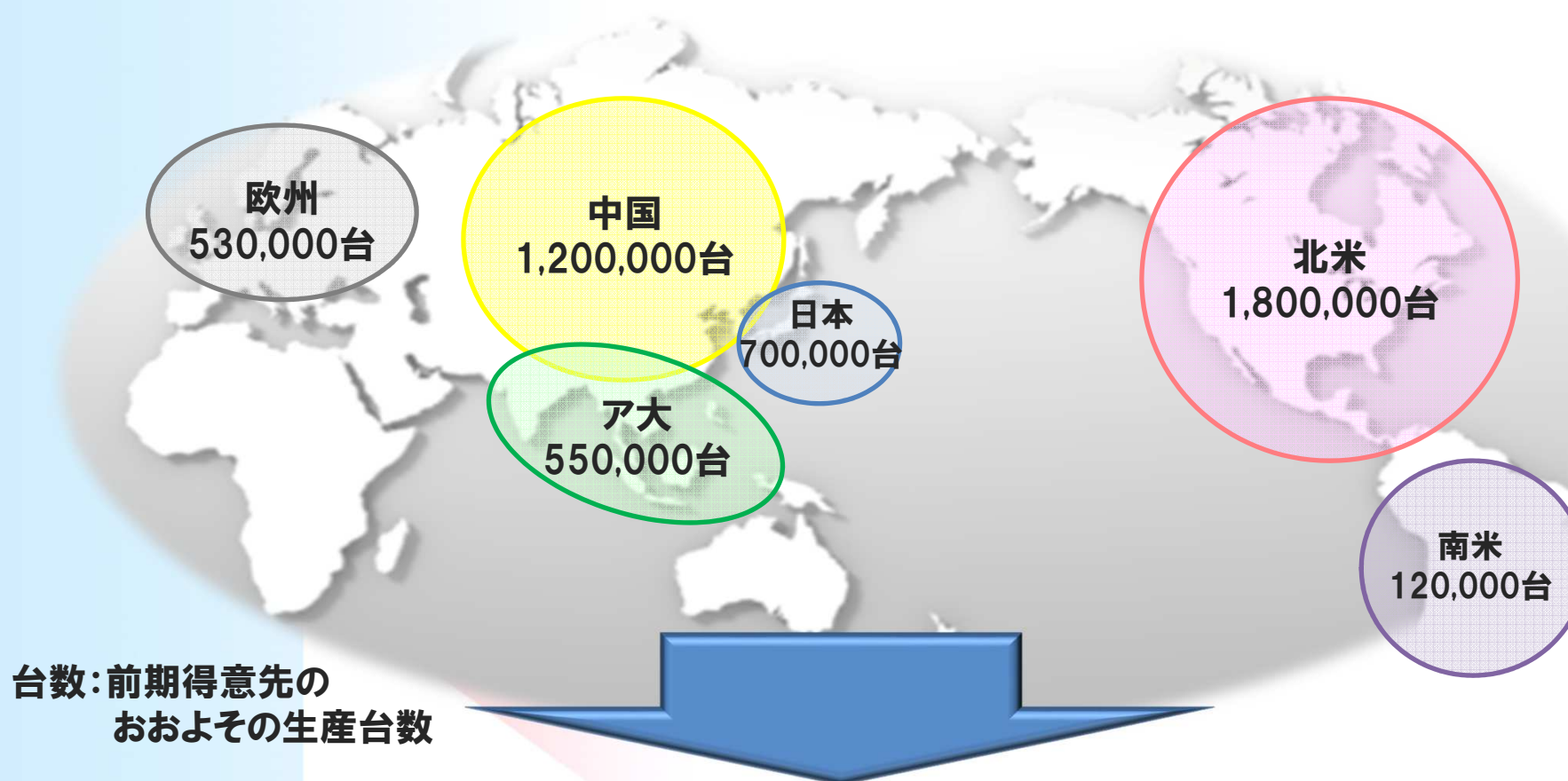
新中期3力年経営計画 経営目標



1. 決算概要
2. 業績予想
3. 経営戦略
4. **トピックス**



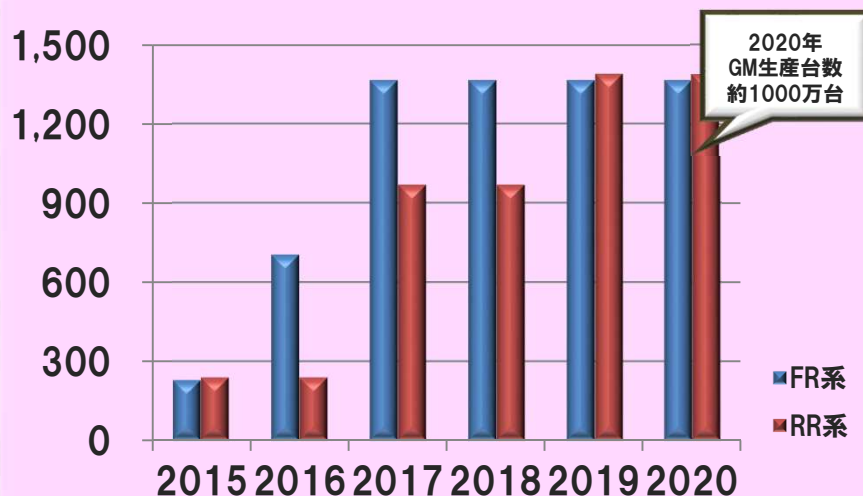
**代表取締役社長
福田 祐一**



全グローバル車種(約490万台) 部品供給率 100%
軽量化と強度・剛性を両立し、高い信頼性を獲得。
得意先のニーズに的確に応える事で継続した受注を実現

外資系メーカー

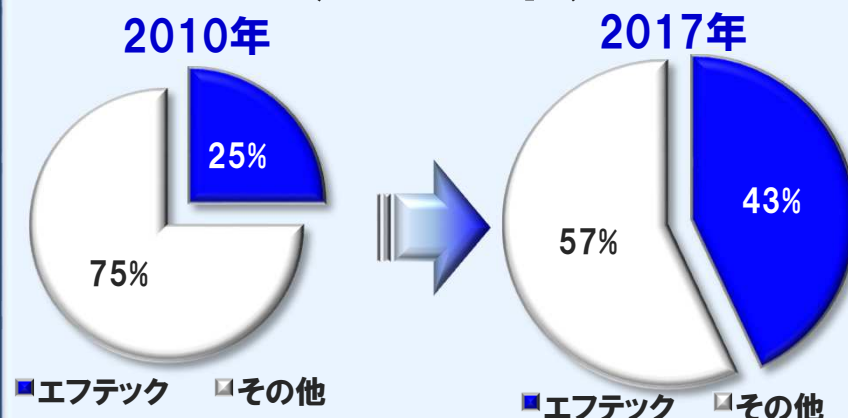
GM サスペンション/マウント部品供給
世界生産130万台(2017年)



新規顧客F,T,Cからも新規受注
 ⇒ サスペンション/マウント部品中心

日系メーカー

日産 コントロール部品供給
世界生産シェア43%獲得
 (2017年)



三菱、スズキからも受注
 ⇒ コントロール部品中心

積極的な他販活動の成果として
 国内外のOEMメーカーから新規受注獲得

エフテックグループはホンダから感謝状含めてアワードを受賞

ホンダ

品質賞	量産部品の品質レベル
搬入賞	量産部品の定時定点搬入率
パーツ賞	旧部品の搬入率や品質等で評価
環境賞	CO2削減プログラム

→ 環境に関しては自動車メーカー（ホンダ）以外からも表彰

感謝状

社会貢献活動

活動内容

- ・備前堀川クリーンアップ
- ・エフテック森林づくり
- ・アダプトプログラム
- ・敷地外清掃活動
- ・工業団地清掃活動 etc.

グループ全体の品質・環境レベルは全世界で高評価を得ている

2016年6月

Energy Management
Insight Award受賞



2017年2月にインドネシア
で開催したワークショップに
政府関係者と共に
日本代表として参加

2017年1月・2月

亀山から世界へ！

グループ共通EnMS構築によるエネルギー管理の進化

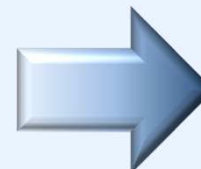
平成28年度省エネ大賞
省エネ事例部門
省エネルギーセンター会長賞



Hondaグリーン大会
グローバル大会 優秀賞
日本地域大会 優秀賞



名 称：一般財団法人
エフテック奨学財団



2017年2月
公益財団法人へ

設 立 日：2016年6月23日

事 業 目 的：奨学金給付を通じた世界で活躍できる人
材の育成支援

エフテック奨学財団ホームページ



**社会貢献の一環として財団法人を設立
2017年2月に公益認定**

ホームページが2015年7月に完全リニューアルいたしました
ホームページを活用し適時適切な情報開示を行っています

<http://www.ftech.co.jp/>



- コーポレートガバナンス
- IRカレンダー
- IR資料館
- 電子公告
- 株式情報
- わたしたちの行動指針



<http://www.ftech.co.jp/company/>

ご清聴ありがとうございました



本資料で記述している将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績と記述としている将来見通しは、大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。

IR情報のお問い合わせ、取材申し込みは
株式会社エフテック 管理本部 総務ブロック/経理ブロック
代表TEL:0480-85-5211 Mail:webmaster@ftech.co.jp